

市政フラッシュ

山東地域の3小学校と3幼稚園が統合、来春から新たなスタート

市教育委員会は、山東地域の梁瀬、与布土、粟鹿の3小学校と3幼稚園の平成23年4月統合に向けて準備を進めています。

この統合は、地域からの要望に基づくもので、昨年2月には、山東地域区長会やPTAなど地域の関係者や学校関係者で構成する「朝来市山東地域小学校等統合準備委員会」を設置、統合へ向けた協議が進められてきました。

今日まで、統合後の校(園)舎は梁瀬小学校(園)を使用することや名称を「梁瀬小学校」「梁瀬

幼稚園」とすること、また、粟鹿と与布土の両地区の子どもたちの通学は、スクールバスを基本とすることなど、統合に向けた必要な事項が調整されています。

市教育委員会では、子どもたちが心を通わせ、新たなスタートを切ることができるよう来春までの残された期間に、3(幼)小学校の児童、園児の交流事業などを計画しています。また、統合後の新たな学校(園)における教育課程などについて準備を進めています。



梁瀬小学校



与布土小学校



粟鹿小学校

我がまち朝来 再発見

第34回

平地の館から山城へ
～土田城・観音山城～

活動を始めます。時には公権力に抵抗し、またある時は略奪行為を行う集団、いわばアウトロー的な存在でした。この悪党が行った行為の中で目立ったのが「城郭を構える」ことでした。特に南北朝期に至っては全国的な動乱状態となり、立てこもるための山の上に作られた城(山城)が急速に発達したのです。

この南北朝期には但馬でも南朝・北朝に分かれて争っていて、その有様は『伊達文書』、『広峯文書』などに記録されています。ここでは文献に登場する城のうち、和田山町にある土田城と、関連する城郭である観音山城について見ることにしましょう。

土田城(鶯が城・遠見が城)と観音山城はJR和田山駅付近から西へ約2.5kmのところであり、南方向から谷部を挟むように延びる山の上にあります。谷部の西側には土田城が、東側には観音山城が築かれています。

中世の武士が築いた最初の城郭と呼べるものは、平地の館(やかた)でした。それらは方形に堀を巡らして、その内側に土塁を築き、正面の橋を渡った門には簡単な櫓を設けたものでした。たとえば関東の豪族、足利氏の館跡は二町四方(約200m四方)と大きなものですが、標準的な地頭御家人クラスのもので約一町四方、また下級荘官・名主クラスになると半町四方であったようです。鎌倉時代の末まではこのような平地の方形館が主流であったようです。

ところが鎌倉期末から、「悪党」と呼ばれる新興武士団が